

大熊町を

端から端まで

知りつくそう!

● 第1回 浜 街 道

ふるさと
再発見

道

私たちが生活していくのに必要な道を取り上げてみました。

昔は水くみ・洗濯・薪拾いや畑へのとおり道、または、

家と家、田と田や家と田を結んでいた道。

道は文化のアクセス、希望へのアクセス。

そんな道を訪ね、むかしの事など掘り起こしてみようと

企画してみました。

浜街道、県道三九一号線

(広野〜小高線)

北は双葉町との町境の福島第一原子力発電所の敷地境から長者原を経て、発電所入り口の信号へ、そこを渡ると県道二五二号線(夫沢〜大野停車場線)と重複する。

少し行くと旧熊町小学校夫沢分校跡、そこには校門の二本の松が、いまでも小さな子らを送り迎えしているようにどっかりと聳えている。

そこを過ぎ愛宕神社前へ進み、県の漁業栽培センター前を南へ、新しい喰津橋を渡って東工業団地を横断し、東方の小入野海岸を目

指すと前方左に熊川海水浴場が見え、その先に馬の背が海に突き出ている景色が飛び込んでくる。

さらに進むと志賀直哉が幼少の頃登って遊んだぐみの木がある。

鮭直売所を過ぎ、熊川下流に掛かる橋を渡る、この橋の下には大きな鯉がいて、優雅に泳ぐ姿を見ていると時の流れを忘れさせるようです。捕ってはいけませんの看板があります。

さらに南へ進み境川を越えた所で富岡町となる。

今の境川には橋はなく、ガードレールがあるだけで何時通ったか

旧浜街道は、

双葉町細谷〜夫沢一熊川一小良浜〜富岡小良ヶ浜に通じる道路で、海岸線沿いに南北に縦断する。

最も古い道路といわれる。旅人が通り抜けた小道がいつか自然の主要道路となり、その昔、征討軍が東北進攻に通ったともいわれている。

(大熊町史より)



分らないくらいである。境川の近くを海の方へ下りると旧道の橋跡が、夏草に埋もれてあった。子供の頃は、この橋をバスに揺られ、怖い思いで通ったと昔を懐かしんで語る人がいた。

